

2025年度 試験問題

(2024年10月20日 実施)

## 基礎学習能力

試験時間 60分

### 【注 意】

1. この問題冊子は指示があるまで開いてはいけない。
2. 解答はすべて解答用紙の所定欄に記入すること。
3. 問題冊子の各ページの余白は自由に使用してよい。
4. 試験終了後、解答用紙は通路側に置くこと。なお、問題冊子は持ち帰ること。

問題 I 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

現代は過剰供給の状況にある。クレイトン・クリステンセンは、この時代状況を、過剰品質（ specification）の時代として切り取る。彼の考えはわかりやすいのでそれに従おう。彼の考えを大胆に単純化して示すと (イ) 次の図になる。



この図の横軸は時間を、縦軸は製品の性能を示す。2本の線が引かれていて、その内の1本は技術進歩のトレンドを示す。時間と共に、製品の技術性能は急速に上昇する。もう1本の直線は、生活者が期待するあるいは利用できる製品性能のレベルを示す。これも、時間と共に増していく。だが、その上昇の早さは技術のそれには及ばない。[1]

私たちが日常、よく使っているパソコンや携帯電話を考えると、わかりやすい。1台100万円もするワープロの機械が出始めたのは、1985年頃。その当時のワープロは、文章や文字の変換の効率もスピードも遅く、清書機械としてならともかく、論文を書くツールとして用いるには、技術はまだ未熟であった。その機械（ソフト）が技術革新によりどんどん改良されて、自分の考えを表現したり精緻化したりするために欠かすことができないツールに変わってきた。そして今では、PC+ワープロソフトには、筆者は使ったことがない、そして使いこなそうとも思わないような機能が数多く含まれている。

ある時点まで、生活者の期待に及ばなかった技術。[2] それで、生活者の期待を超えるものとなる。そして、生活者自身がその技術をうまく使いこなすということができなくなるほどになる。この状態は、技術が、顧客が期待する（利用できる）レベルを上回っている、つまり「技術性能>顧客の期待性能」であることを意味している。図で言うと、両直線の交点の右側の部面である。

提供される技術レベルが使用者の使いこなす（あるいは期待する）レベルを上回るということは、PCや携帯電話という機械製品ばかりでなく、食品にも衣料品にも日用雑貨品にも化粧品にも、考えられることだろう。[3] それは、つまり機能・品質がオーバースペック、つまり過剰だというわけである。

さて、図で2つの直線が交わる交点を境に、過小品質から過剰品質の状況に変わるわけだが、それを境に、マーケティングのやり方はまったく違って来る。

交点の左側、つまり技術が生活者の期待に及ばない過小品質の部面では、企業の積極的な技術開発は、生活者の気持ちを捉える。技術の進化による優れた性能の提供は、生活者のニーズに適う。だが、交点を超えて過剰品質の部面に入ると、どうだろうか。

生活者は、新機能の追加や品質のさらなる改善に対して、強い興味をもたなくなる。企業が、新機能や改良製品のメリットをいくら宣伝しても、生活者の反応はもう一つということが起こってくる。「(10) これだけ素晴らしい機能を追加した新製品なのに (あるいは品質を改良したのに)、思ったほど需要は伸びない」ということが起こってくるなら、それは過剰品質の部面に入っていることを疑った方がいいだろう。

**B**、そのことに無頓着な企業であれば、新製品の需要創出効果が現れないとなると、さらなる新製品開発に走るかもしれない。他に、やり方がわからないというものもあるだろう。こうして、技術への投資が嵩む<sup>かさむ</sup>一方で、その回収が順調には進まないという事態が生まれてくる。結果は明らかだ。企業の投資利益率は低落の一途をたどることになる。**4**

その企業を含む業界も、おそらく同じように収益性は落ちるだろう。いや、もっと事態は悪いことになるかもしれない。というのは、新製品が生まれても、その果実を収穫する前に、他社に真似されツイ<sup>ツイ</sup> ズイされて、その利得を得る間もなく価格競争に突入してしまうからだ。過剰品質の時代は、競争企業間での技術レベルが横並びの時代でもありそうだ。製品開発技術も生産技術も、企業間で横並び状態で、「わが社の商品は業界一番の品質だ」、「わが社の新製品は機能的に一番だ」とアピールしても、すぐにそれにツイ<sup>ツイ</sup> ズイされる。

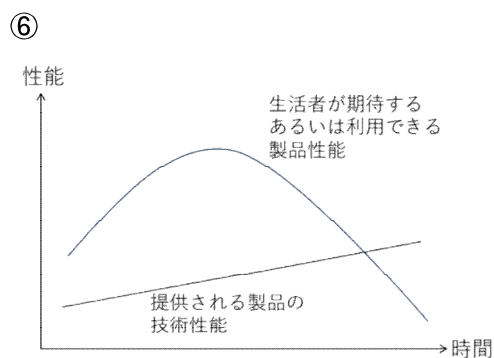
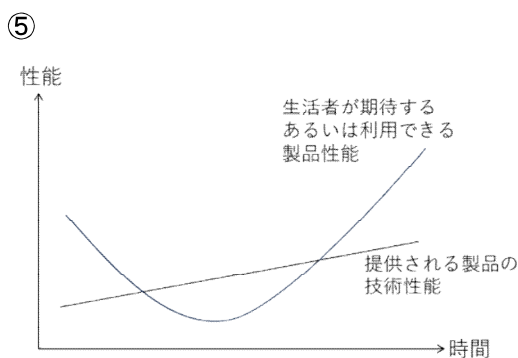
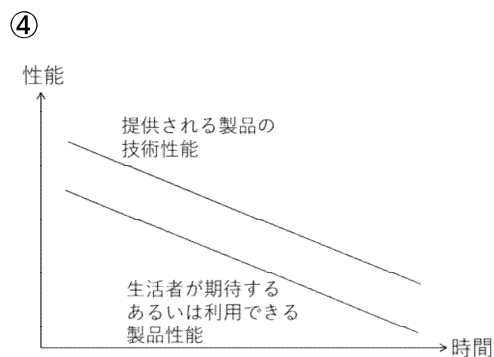
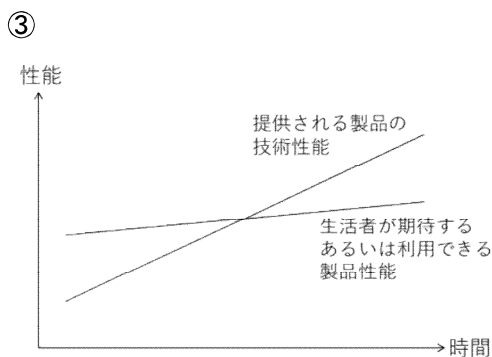
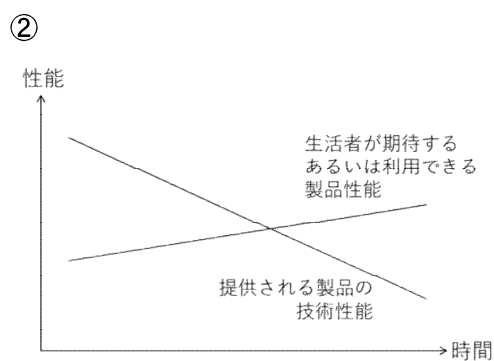
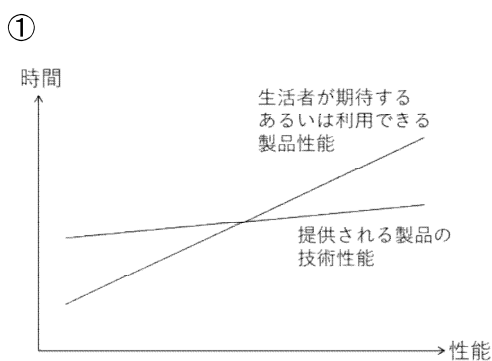
過剰の供給の中で、過剰になる品質、企業間で平準化した技術、そして厳しい企業間競争。**5** それが高成長期を経た経済社会の特徴だ。企業は其中で、事業の舵取りを迫られている。

(石井淳蔵『マーケティングを学ぶ』による。一部改変)

問1 文中の空所 A に入る英単語として最も適切なものを, 次の①～⑤の中から 1 つ選び, 記号で答えなさい。

- ① Around    ② Beside    ③ Over    ④ Through    ⑤ Under

問2 文中の下線部 (イ) の「次の図」に該当する図は文中で省略されている。本文の説明に合致する図として最も適切なものを, 次の①～⑥の中から 1 つ選び, 記号で答えなさい。



問3 文中の空所Bに入る語句として最も適切なものを、次の①～⑤の中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ① したがって                      ② ところで                      ③ たとえば  
④ しかし                            ⑤ そして

問4 文中の□1～□5のいずれかの場所に、「それらは、あたかも重力が地の底にモノを引きつけるように、ゼロの収益性に向かう力となって働く。」という文章が入る。この文章が入る文中の場所として最も適切なものを、次の①～⑤の中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ① □1                                  ② □2                                  ③ □3  
④ □4                                  ⑤ □5

問5 文中の下線部(ロ)の「これだけ素晴らしい機能を追加した新製品なのに(あるいは品質を改良したのに)、思ったほど需要は伸びない」という状況が生じる理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 製品への新機能の追加のための投資額が、その広告宣伝のための支出額に比べて過剰になっているため。  
② 業界内での企業間競争が激化していくのに伴って、製品の過小品質に生活者が新たな価値を見出すようになるため。  
③ 技術進歩の速度と生活者の期待性能の向上スピードとが一致する場合に、機能追加による新製品の展開が不可能になるため。  
④ 新製品で追加された機能が生活者の期待している性能を上回っているために、その追加的性能に生活者が興味を示さなくなるため。  
⑤ 過剰品質の時代から過小品質の時代へと時代が移り変わることによって、その時代に適合したマーケティングのあり方が異なるため。

問6 以下の各文の下線部の片仮名を漢字で書き表したとき、文中の下線部(ハ)の「ズイ」と同じ漢字を**含まないもの**として最も適切なものを、次の①～⑤の中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 総理大臣にズイコウする。
- ② コツズイバンクにドナー登録した。
- ③ 鴨長明のズイヒツ『方丈記』を読む。
- ④ ある事件にフズイして別の事件が起きた。
- ⑤ 入札によらないズイイ契約は認められない。

問7 この文章のタイトルとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 製品改良のメリット
- ② 過剰品質のメカニズム
- ③ 新製品開発成功のレベル
- ④ 競争劣位企業のアピール
- ⑤ 技術開発のマーケティング

問題Ⅱ F, G, H, I の 4 社の従業員の通勤手段の割合が表 1 にまとめられている。また、表 2 は 4 社の従業員数全体に占める各社の従業員数の割合を示している。これらの表をもとに、後の各問に答えなさい。ただし、通勤手段は従業員一人につき 1 つであり、重複はないものとする。

表 1

	F 社	G 社	H 社	I 社	4 社全体
電車	50%	(ア)	20%	30%	34%
自転車	15%	40%	60%	15%	30%
徒歩	30%	20%	10%	40%	25.5%
その他	5%	20%	10%	15%	10.5%
計	100%	100%	100%	100%	100%

表 2

	F 社	G 社	H 社	I 社	4 社全体
従業員数の割合	40%	15%	25%	20%	100%

問 1 「電車」で通勤している F 社の従業員数は、4 社の従業員数全体の何%か。最も適切なものを次の①～⑩の中から 1 つ選び、記号で答えなさい。

- ① 10%      ② 15%      ③ 20%      ④ 25%      ⑤ 30%  
 ⑥ 35%      ⑦ 40%      ⑧ 45%      ⑨ 50%      ⑩ 55%

問 2 「徒歩」で通勤している I 社の従業員数は、「徒歩」で通勤している H 社の従業員数の何倍か。最も適切なものを次の①～⑩の中から 1 つ選び、記号で答えなさい。

- ① 1.4 倍      ② 1.6 倍      ③ 1.8 倍      ④ 2.0 倍      ⑤ 2.2 倍  
 ⑥ 2.4 倍      ⑦ 2.6 倍      ⑧ 2.8 倍      ⑨ 3.0 倍      ⑩ 3.2 倍

問3 G社で「その他」で通勤している従業員数は30人であった。このとき、4社の従業員数は合計で何人か。最も適切なものを次の①～⑩の中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 300人      ② 400人      ③ 500人      ④ 600人      ⑤ 700人  
⑥ 800人      ⑦ 900人      ⑧ 1,000人      ⑨ 1,100人      ⑩ 1,200人

問4 表1の空所(ア)に入る値として最も適切なものを、次の①～⑩の中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 1%      ② 3%      ③ 5%      ④ 10%      ⑤ 15%  
⑥ 20%      ⑦ 25%      ⑧ 30%      ⑨ 33%      ⑩ 35%

問5 ニュージーランド出身のF社の新入社員であるJさんに通勤手段について尋ねたところ、以下のような回答であった。日本語の訳を参考にして、次の英文の空所に入る単語として最も適切なものを、後の①～⑩の中から1つ選び、記号で答えなさい。

I commute to work ( ) train.

「私は電車で通勤しています。」

- ① in      ② to      ③ at      ④ by      ⑤ of  
⑥ for      ⑦ off      ⑧ into      ⑨ from      ⑩ about

問題Ⅲ 以下の各問に答えなさい。

問1 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

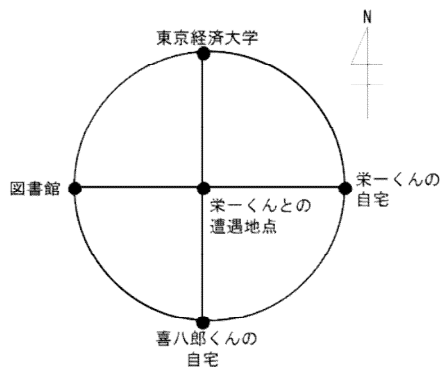
喜八郎くんは自宅から図書館へ向かっている途中で迷子になってしまった。さらに、運悪く携帯電話の電池が切れていることが分かった。携帯電話の位置情報サービスも使えない状況で、どうやって図書館に向かうべきか立ちすくんでいたところ、友人の栄一くんに遭遇した。そこで、栄一くんの携帯電話の位置情報サービスを利用させてもらったり、栄一くんと会話するなどして、最終的に喜八郎くんは図書館にたどり着くことができた。

- (1) 喜八郎くんは、栄一くんの携帯電話の位置情報サービスを利用して得た次の情報に基づいて、できるだけ正確な地図を描いた。その地図として最も適切なものを、次ページの①～⑤の中から1つ選び、記号で答えなさい。

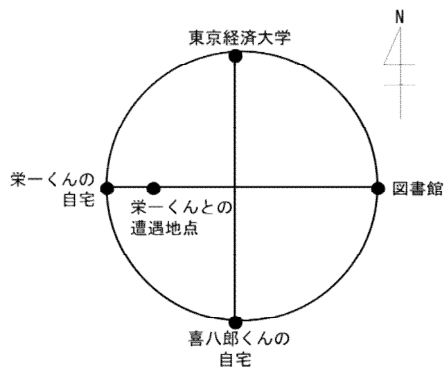
<位置情報サービスを利用して得た情報>

- ・栄一くんと遭遇地点から真東に移動すると図書館に到着できる。
- ・栄一くんと遭遇地点から真西に移動すると栄一くんの自宅に到着できる。
- ・栄一くんと遭遇地点から真南に移動すると喜八郎くんの自宅に到着できる。
- ・栄一くんと遭遇地点から真北に移動すると東京経済大学に到着できる。
- ・栄一くんの自宅と図書館とを結ぶ線分を直径とする円周上に、喜八郎くんの自宅と東京経済大学がある。

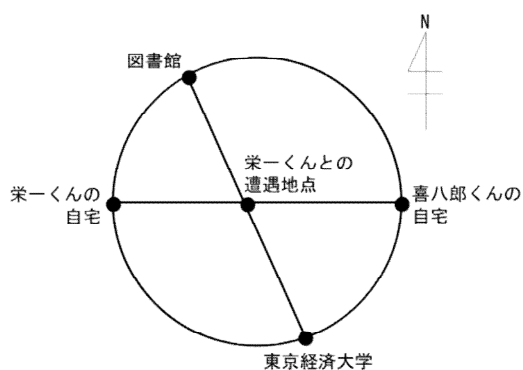
①



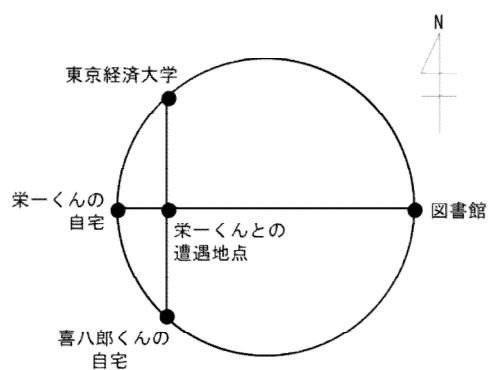
②



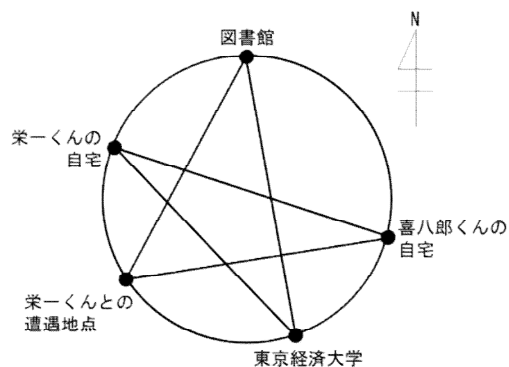
③



④



⑤



(2) 喜八郎くんは、栄一くんと会話しながら、追加で次の情報を確認した。(1) の情報に加えて、会話をとおして確認した次の情報に基づくとき、栄一くんと遭遇した地点から図書館までの喜八郎くんの移動についての記述として最も適切なものを、次ページの①～⑤の中から1つ選び、記号で答えなさい。

<会話をとおして確認した情報>

- ・栄一くんは、自宅から直線距離で1 km 移動した地点で喜八郎くんに遭遇した。
- ・喜八郎くんは、自宅から直線距離で2 km 移動した地点で栄一くんに遭遇した。

- ① 栄一さんと遭遇した地点から直線距離で真東へ 4 km 移動して図書館に到着した。
- ② 栄一さんと遭遇した地点から直線距離で真東へ 6 km 移動して図書館に到着した。
- ③ 栄一さんと遭遇した地点から直線距離で真西へ 4 km 移動して図書館に到着した。
- ④ 栄一さんと遭遇した地点から直線距離で真北へ 2 km および真西へ 1 km 移動して図書館に到着した。
- ⑤ 栄一さんと遭遇した地点から直線距離で真東へ 2 km および真北へ 4 km 移動して図書館に到着した。

問2 ある大学の F 館の 5 階には、パソコンが設置されている 5 つの教室と PC 相談室の 6 つの部屋のみが、下図のように配置されている。月曜日 2 時限のそれら 6 つの部屋の利用状況を調査したところ、後のことが分かった。なお、文章における左右は教室配置図での左右を示す。

< 教室配置図 >

F501	F502	F503
廊下		
F504	PC 相談室	F505

< 調査で分かったこと >

- ・オオクラキハチロウ教授の「経営財務論」の授業は、シブサワエイイチ教授の「マクロ経済学」の授業の右隣の部屋で行なわれている。
- ・ワタナベヒロモト教授の「現代政治学」の授業は、PC 相談室の隣の部屋で行なわれている。
- ・イングロタダノリ教授の「データ分析ワークショップ」の授業は、F503 で行なわれている。
- ・月曜日 2 時限の F 館 5 階には、授業が行なわれていない部屋が 2 つある。
- ・すべての曜日時限で、PC 相談室において授業が行なわれることはない。

(1) オオクラキハチロウ教授の「経営財務論」の授業が行なわれている部屋として最も適切なものを、次の①～⑥の中から1つ選び、記号で答えなさい。

- |        |        |          |
|--------|--------|----------|
| ① F501 | ② F502 | ③ F503   |
| ④ F504 | ⑤ F505 | ⑥ PC 相談室 |

(2) <教室配置図>と<調査で分かったこと>とに基づく場合、月曜日2時限におけるF館5階の各部屋の利用状況について**確実に正しいとは判断できない記述**がなされているものを、次の①～⑤の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① イシグロタダノリ教授の「データ分析ワークショップ」の授業が行なわれている部屋の、廊下をはさんだ真向かいの部屋はPC相談室ではない。
- ② シブサワエイイチ教授の「マクロ経済学」の授業が行なわれている部屋の、廊下をはさんだ真向かいの部屋はPC相談室ではない。
- ③ ワタナベヒロモト教授の「現代政治学」の授業は、イシグロタダノリ教授の「データ分析ワークショップ」の授業が行なわれている部屋の、廊下をはさんだ真向かいの部屋で行なわれている。
- ④ PC相談室の廊下をはさんだ斜め右方向にある部屋でイシグロタダノリ教授の「データ分析ワークショップ」の授業が行なわれている。
- ⑤ シブサワエイイチ教授の「マクロ経済学」の授業が行なわれている部屋の廊下をはさんだ斜め右方向にある部屋の中には、月曜日2時限に授業が行なわれていない部屋がある。

問題Ⅳ 以下の各問に答えなさい。

問1  $x$  と  $y$  とが次のように表されるとき、 $x + y$  の値を求め、整数で答えなさい。

$$x = \frac{1}{2 + \sqrt{3}} \quad y = \frac{1}{2 - \sqrt{3}}$$

問2  $xy$  平面に次の2つの関数のグラフを描いたとき、その2つのグラフの共有点の個数はいくつか。最も適切なものを、後の①～⑤の中から一つ選び、記号で答えなさい。

$$y = \frac{1}{2}x^2 \quad y = x - 1$$

- ① 0                      ② 1                      ③ 2                      ④ 3                      ⑤ 5

問3 男性15名、女性10名の学生で構成される会合において、会長1名と副会長2名を選出する。このとき選出される学生の組合せは何通りあるか、整数で答えなさい。ただし、会長と副会長との兼任は認められておらず、副会長2名は男性1名と女性1名とで構成されなければならないとする。

問4 1辺の長さ6 cmの正方形ABCDに、面積 $20 \text{ cm}^2$ の正方形EFGHが内接している。AEの長さを整数または分数で答えなさい。なお、分数で解答する場合には、既約分数（それ以上、約分できない分数）にして真分数または仮分数とすること。また、AEの長さはEBの長さより長いものとする。

